

事務所の家賃を支払った場合は？

慣れないうちは取引があったとき、どんな勘定科目で処理すればいいのか、悩むケースもあるでしょう。そうした勘定科目の取扱いについて、新人さんと一緒に、事例をもとに学んでいきましょう。



新人さん：〇×駅周辺の再開発エリアにも事務所を開設するって本当ですか？

先輩：ああ。あのエリアは若い企業が多いから活気があるし、何よりどこからアクセスがいいからね。役員会で即決だったらしいよ。

新人さん：そうなんですかあ。リモートワークも増えているから、事務所は縮小傾向なのかと思っていました。

先輩：もちろん、リモートのよさもあるよ。ただ、対面のコミュニケーションも大切だからね。

新人さん：確かにそうですね。でも人気のエリアだと家賃は高そうですね。

先輩：だろうね。活発にコミュニケーションをとって、生産性を上げていかないとだね。

●解説

「地代家賃」とは、建物や土地などの不動産を賃借する場合に、その所有者に対して支払う賃料を処理する勘

定科目です。なお、〇A 機器や工作機械などの動産を賃借する場合の賃料は「賃借料」の勘定科目を使います。

「地代家賃」は、賃借している不動産が事務所や店舗などであれば「販売費及び一般管理費」に計上し、製造部門で使用している工場などの不動産であれば「製造経費」の一部として「製造原価」に計上されます。

「地代家賃」の消費税に関する処理には注意が必要です。土地の譲渡や貸付は、消費税の課税対象とならないので、土地を賃借した場合の地代は非課税となります。一方、事務所などの建物の家賃は課税対象ですので、消費税が課税されます。

建物などの賃貸借契約において、「地代家賃」のほか、仲介手数料は「支払手数料」として、解約・明渡しの際に返還されない権利金などは「長期前払費用」（税法上の繰延資産）として、また将来、返還される保証金や資金などは「差入保証金」として処理します。なお、「長期前払費用」は、原則として、一定の償却期間内に償却して費用化します。

ケース 1

工場の敷地の地代を振り込んだ場合

工場の敷地の地代として、500,000円を普通預金口座から振り込んだ。振込手数料は770円（税込）であった。

【借方】	地代家賃	500,000	【貸方】	普通預金	500,770
	支払手数料	700			
	仮払消費税等	70			

ケース 2

事務所の家賃を振り込んだ場合

ビルの一室を事務所として賃借している。家賃220,000円（税込）を普通預金口座から振り込んだ。振込手数料は440円（税込）であった。

【借方】	地代家賃	200,000	【貸方】	普通預金	220,440
	支払手数料	400			
	仮払消費税等	20,040			